

ローカルのカフェや日本を代表する伝説の喫茶店。コーヒー最新事情から基礎知識まで網羅した保存版!

# Discover Japan

サードウェーブコーヒーの次は何だ?

2015

November

11

2015年11月号(毎月6日発売)  
10月6日発売  
第7巻第11号/通巻44号



特別編とし  
世界を魅了する  
日本のアート  
春画が気になる!



特集

あらためて  
コーヒーとカフェ。

## Coffee&Cafe

いまローカルのカフェがおもしろい! / レジェンドが語る日本のコーヒー / コーヒー文化論 / わたしとコーヒー / 東京コーヒー最新案内 / コーヒーの相棒 / マイ・ベスト・コーヒーの見つけ方

第2特集 秋の東北ツーリズム

この秋、手が仕事をつむぎだす

# 東北へ

秋、東北を訪れるには十分過ぎる理由がある。

四季がはつきりしている東北の、収穫の秋。

なだらかな山々が赤く燃え立ち、

回遊魚が親潮に乗り南へと帰ってゆく……。

まずは、手仕事をたずねたくなった。

冬が長い東北だからこそ受け継がれてきた、

飾り気のない手仕事の数々。

人の手がつむぎだす、仕事を訪ねて、

東北の奥へと、旅立ってみよう。



# 人がつむいできたもの。人と人とのコラボレーションが あたらしいものづくりをつむぎます

職人の顔が見えるような  
手仕事を伝えていきよう

いまから30年近く前、青森県十和田湖のはとりに一軒のお店が誕生した。青森、秋田、岩手を中心として、東北地方の手仕事を集めた「暮らしのクラフトゆずりは」だ。最近では当たり前のようにクラフトという言葉が使われおり、「日本のものづくりを見直そう」という動きも生まれていく。

「もともと私は、結婚して嫁いだ十和田湖の近くにある旅館で働いておりました。しかし、十和田湖には多くの観光客がいらつしやるのに、そこで紹介されているお土産は土地と全然関係のないものばかり。そのとくに疑問を覚えたのがはじめて買ったんです」

旅を知ってくる人々に、この場所のよさを伝えてほしい。そんな想いから、田中さんが目をつけたのは東北の伝統的なものづくりだっ

た。日本の中でも特に厳しい風土であり、かつては都の進んだ技術や文化が伝わってくるのも遅れていった地域。そんな環境で生きていくために、自然の素材を生かし、さまざまなお工夫を凝らしながら育まれてきた手仕事に、自分自身が魅力を感じたのだ。

「思い立ってからまず3年は、東北の職人さんたちを訪ねて回りまわした。これはいまでも変わっていない信念なのですが、まずはつくり手の方とお会いして、どんな場所でもどんな風景を見て暮らし、どんな想いをものづくりに込めているのかを教えていただく。そこそそ膝を交わさせて、相手の思っていることを聞いてみるように。そして自分の五感で感じとった物語を含めて、お客さまにご紹介したいと思つてんです」

単純にものを集めて売るのはなく、まず心の底から職人たちと向き合い、購入した人にも、つくり手の顔が見えるようにして届けたい。それだけ真剣に手仕事のよさを広めようとしてくる田中さんだからこそ、職人たちのつくるもの

のに対して、自分なりに提案をすることもあった。

「職人さんたちは、ものづくりに没頭するあまり、ちよつとしたことには気づけないときがあります。たとえばそれはサイズ感であったり、色であったり、素材の組み合わせであったり。ほんの少しアドバイスをするだけで、驚くほどお

客さまに受け入れられるようになることがあるんです。ただし、ものを売る立場にある私がそういって提案をすることには責任が伴います。万が一うまくいかなかったとしても、それを買い取る覚悟を持っていないければ許されなことです。だと思つて、「こんなことを頑固に続けているのはあんただけわたしもしますけどね(笑)」

じつは今回紹介しているコラボレーション(作品)「織とあけのバッグ」(P.098)、「浄法寺漆の朝食膳セット」(P.099)も、これ「ゆずりは」がきっかけで生まれたものだ。前者に使われていた裂織の色は田中さんが指定したもので、製作過程でもいろいろと

助言をしている。後者はそもそも田中さんの発案で実現したコラボレーション。自分が提案をするに留まらず、こうしてつくり手同士を、伝統と伝統をつないで、従来になかった新たなものを生み出しているのだ。

「元來、職人さんというのは自分のつくるものにプライドもこだわりもついていますから、コラボをお願いするというのはものすごく気が遣いますし、難しいことです。しかし、単にうつつをほんとおしくおしくお盆の上のせたほうが映えるように、組み合わせることで生まれる魅力があるんです。それは結果として、お客さまが目留めてくださるきっかけ、開口が広がることにもつながります。職人さんに「どんなに美しい仕上げも、使うことと勝る仕上げはない」という言葉を教えていただいたことがあるのですが、まさにその通り。私たちが扱う品々はあくまで日々の道具なので、まず手にとってもらう、そして使つてもらわなければ意味がないんです。そのためにも必要だと思うことは、



暮らしのクラフト ゆずりは  
田中陽子さん

1989年より十和田湖畔で「暮らしのクラフト ゆずりは」を営む。北東北を中心とした手仕事を伝えながら現代の生活に合う道具を提案している

なんでもお願いいたしますよ」

田中さんは、日本国内はもちろん、海外にも足を運び、東北のものづくりを伝え続けている。

「もしも東北のものがいいと感じたら、一度振り返って、自分たちのふるさとに何があったのかも思い出してみてください。もしもがしたら、宝物はずっと足下にあつたのかも知れませんよ」



暮らしのクラフトゆずりは  
住所：青森県十和田市大字奥崎字  
十和田湖畔休屋496 Tel：0176-75-2290  
営業時間：9:00～17:00 定休日：なし  
(11月中旬～4月中旬冬休業)

秋の瓦サロン展  
会期：～10月17日(土) 10:00～18:00  
会場：瓦サロン(東京都港区南青山5-11-20)  
以降11月4日(水)～23日(土)名古屋展。  
12月1日(水)～12日(土)京都展。  
12月17日(水)～22日(火)静岡展と、全国巡回を行う。  
詳しくは下記Webサイトを確認 [www.yuzuriha.jp](http://www.yuzuriha.jp)